

コンピュータ産業研究会への希望

1993年11月11日

ソフトウェア研究所

鹿野谷武文

当研究会とのかかわりで、この1年間の業界トピックスを紹介し、今後の研究テーマの検討材料とさせていただきたい。

■独占禁止法とのかかわりで

マイクロソフトへの連邦公正取引委員会の調査は違法行為が認められないとの裁定であった。この問題で、米国では違法行為が認められなかったからこそ、大きな問題が提起されたとの意見が出始めている。

マイクロソフト社がWindowsという新しいプラットフォームを業界に提供し、このため同社は高収益を上げているが、これは同社がプラットフォーム提供・独占という地位を利用して自社のアプリケーションソフトを販売したことが大きな要因との主張に基づく調査であった。

プラットフォームは独占的に管理し運用する方が技術的には業界全体としてプラス要因だが、ビジネス的にはマイナス要因であり、独占禁止の範疇を越える問題が提起されてきたというのである。

■標準問題

今回の不況でソフトウェア業界史上最悪の倒産件数を記録、通産省の統計開始以来初めての、売上、事業所数のマイナス成長を記録した。一方で、2～3倍の売上を記録するソフトハウスがめずらしくない。この分岐点はプラットフォームの選択であり、標準動向の見定めであった。

標準とは何かという問題と同時に、標準と技術及び経営戦略の関連性が明確になっておれば、今回の事態はかなり回避できた面もある。

■製品のフルラインと専門特化について

研究会において自動車産業との対比でしばしば論じられてきた問題でもある。

パッカードベル社の台頭

■技術と組織の問題について

この1年間でコンピュータ利用企業等からの問い合わせの多かった問題の1つが「ダウンサイジングによる企業への影響」であった。

最近のコンピュータ専門雑誌で、S I Sやダウンサイジングの導入に警告を発するものが出始めた。

→ネットワーク組織

■ユーソウェアについて

昨年設立された日本ユーソウェア協会が「ユーソウェア技士第1種・第2種認定試験」を来年1月に実施することになった。ユーソウェアが今後大きな事業として、業種として発展していくことを象徴している。

CGの分野（ハードウェアは勿論のことアプリケーションも）

■事業推進とアライアンス問題について

・競争認定か否か

コンソ-アムが多い // 2<2<2<-94巻

X 排他的競争

■競争問題について

<<究極問題>>

コンピュータ産業研究会活動実績

1992年

9月16日 第1回研究準備会開催
内容：研究会の運営、呼掛けについて

11月27日 第2回研究会開催
内容：「ソフトウェア産業にみられる多様な問題の提起」
講師：鹿野谷武文（ソフトウェア研究所）

1993年

1月3日 第3回研究会開催
内容：「競走戦略と累積成果 日本パソコン産業での実証分析」
講師：李亨五氏（東京大学大学院経済学研究科）

2月22日 第4回研究会開催
内容：「企業間および企業内事業単位の再編／分離／併合を基軸とした当該産業再編成の形態論（米国事例と日本の対比）」
講師：手島速雄氏（日本DEC株式会社）

4月19日 第5回研究会開催
内容：「オフコンにおけるソフトウェアアフターサポートの有償化について」
講師：志賀敏宏氏／木村健人氏（三菱総合研究所）

5月28日 第6回研究会開催
内容：「情報システム新時代ーダウンサイジングからリストラへ」
講師：戸田忠良氏（戸田ソフトウェアオフィス代表取締役）

7月16日 第7回研究会開催
講師：「パーソナルコンピュータ市場とPC-9800」
講師：早水 潔氏（日本電気パーソナルコンピュータ応用技術本部）

9月17日 第8回研究会開催
内容：「花王における情報システムの考え方と取り組み」
講師：橋山真人氏（花王株式会社システム開発部）

11月11日 第9回研究会開催
内容：「貿易統計に基づくコンピュータ周辺機器の世界需給調査の概要」
講師：尾高悠子氏（三菱総合研究所）